

開催地名：北海道江別市	
開催日時	令和元年10月19日（土） 14：00～15：30
開催場所	江別市民会館
語り部	山田 修生（宮城県仙台市）
参加者	市内自主防災組織、自治会、防災マスター、地域住民 約80名
開催経緯	<p>当市は昨年9月の北海道胆振東部地震で最大震度5強の地震により昭和56年に起こった水害以来の大規模な災害を経験し、ほとんどの地域住民が初めて停電下での避難や給水などの災害対応を経験することとなり、多くの課題が見つかった。</p> <p>現在地域住民を含め、連携して課題に対する検証を重ねているところではあるが、今後更なる大規模な地震が発生した際には、どのような状況が想定されるのか、また地域活動を担う自治会や自主防災組織がどのような行動が望まれるかなど、地域住民に「自らの命は自らが守る」意識や災害に対する気づきを与える伝達方法についてお話を伺いたい。</p>
内容	<p>（1）震災発生時の諸問題</p> <p>東日本大震災後、自分がどう動けばいいのかわからず、知識はあっても、どんなに準備をしても、まったくゼロからの出発となった。事前に準備していたように町内会単位での避難はできず、近隣の数世帯ごと、家族単位、個人単位での避難がほとんどであった。これが現実である。</p> <p>大地震の前には震度2～4程度の地震が何回かあるのが一般的である。その際、横揺れについては心配ありませんが、東日本大震災では地下から「ゴオー」と音がして縦揺れ、横揺れ、斜め揺れと、すごい揺れが続いた。家の中ではテレビが数メートル移動し、家具は倒れ、物が床に散乱した。なるべく家の高い所に、厚底の靴を置いておくことが望ましいと思う。（地震が発生したらその靴を履いて行動する）</p> <p>水道管の破裂等でマンション内ではあらゆるところが水びたしとなっていた。電線が垂れ下がり、感電の危険がある中、着のみ着のまま避難したのが実情である。その際に、携帯電話とバッテリー、携帯ラジオ、懐中電灯、電池、常備薬等を持ち出せると避難先で有効である。（携帯ラジオは避難所では唯一の情報源となり、大き目の懐中電灯は天井に向けると全体がぼんやりでも明るくなる）</p> <p>住宅事情にもよりますが、家の中で1部屋だけ家具を置かない部屋があれば、家族がそこに集合できるので便利である。</p> <p>（2）災害に対する危機意識をもちよう！</p> <p>今いる場所から避難場所を経由して、避難所に避難するというマニュアルは、</p>

各地域で保有されていると思う。ただ、発災時のまさにさし迫った状況で、具体的にどのようにして避難するかといった資料については、あまり見たことがない。もう一つは、女性中心の避難訓練を是非実施してほしいということである。東日本大震災の場合もそうであったが、発災が平日の午後2時46分ということで、まさに、男性の皆さんが自宅に不在の時間である。その時間に地震が起きて、女性と要援護者の皆さんが、いろんな工夫をしながら避難せざるを得ない状況だったわけである。平日の日中の発災を想定して、女性中心の訓練の実施を是非お願いしたい。

各地域で、災害時に当面の避難生活を行なう避難所として、指定避難所が設定されている。武豊町では町内の4つの小学校と2つの中学校、その他8箇所の公共施設である。指定避難所となっている学校の近隣に居住されている方々については、防災訓練等で学校との連携を密にしていきたいと思う。そうすることで災害時にも連携がスムーズに行える。

(3) 震災から学んだこと

災害時にはインフラが麻痺し、ライフラインが壊滅的な損害を受け、電気・水道・ガス・交通・経済がストップしてしまう。そのときは自助だけが自分たちの助けとなる。訓練や心構え、知識、経験は決して自分を裏切らず、役に立ってくれるものである。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずに、いざとなったらこれは必ず役に立つと考えて参加してほしい。避けられない災害を共生することを意識して、備えは怠らずに生活していただきたいと思う。



開催地より

講師の方には、ご自身の東日本大震災時の体験談を交えながらわかりやすく、お話をしていただいた。本日参加した自主防災組織の方々には、防災について再認識してもらう良い機会になったと思う。